

北海道教育委員会教育長 様

北海道名寄高等学校長 鈴木 究

次のとおり、令和5年度の学校評価について報告いたします。

<学校教育目標>

- 自分を大切にし、自ら考え、学び続ける（じぶん）
- 多様性を尊重し、責任ある行動をとる（みんな）
- 郷土から、新たな価値を創造する（つくる）

1 スクール・ミッション

- 生徒の興味・関心、進路希望等に応じて柔軟に教育課程を編成し、ここの進路実現に向けて必要な能力や態度を身につけた生徒の育成
- 地域の高校として地域の教育資源を活用した教育活動を通じて、地域の未来を創っていく生徒の育成

2 スクール・ポリシー

- 入学者の受入れに関する方針
 - ◆ 学校生活の多様な取組に意欲と関心を持ち、主体的に学び続ける生徒
 - ◆ 多様性を尊重し、目標の設定や選択を行い自己実現を図ろうとする生徒
 - ◆ 学校で培った資質や能力を生かし、郷土に貢献しようとする生徒
- 教育課程の編成及び実施に関する方針
 - ◆ 多様な進路希望を叶える教育活動を行います。
 - ◆ 地域、大学等と連携し、探究活動や国際理解教育を行います。
 - ◆ 学校生活全般において様々な経験を重ねることが出来る機会を提供します。
- 育成を目指す資質・能力に関する方針
 - ◆ 自己実現に向けた基礎学力、課題発見力、情報活用力が身に付いている。
 - ◆ 他者を尊重し、創造力、課題解決力、発信力が身に付いている。
 - ◆ 多様な他者と協働し、果敢に挑み、主体的に学び続けることができる。

3 重点目標

一人一人の多様な幸せと Well-Being の実現に向けて、未来に向かって学び続ける人を育む。

4 経営方針

- (1) 新学習指導要領の趣旨を踏まえ、「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指す。
- (2) ICT の効果的な活用と、探究活動の充実を図る。
- (3) 自他の生命を大切にし、多様性を尊重する意識と態度の育成に努める。
- (4) 生徒会活動及び部活動、課外活動を支援、活性化し、主体性や社会参画意識の醸成を促す。
- (5) 教職員の同僚性、協働意欲を高め、「働き方改革」を推進し、活力ある学校づくりを推進する。
- (6) 学校運営協議会を設置し、コミュニティスクールを軌道に乗せる。
- (7) 特別支援教育の充実を図る。

5 自己評価結果・学校関係者評価結果の概要と今後の方策

評価項目	自己評価の結果	学校関係者評価の結果
学習指導	・「総合的な探究の時間」に力を入れ、自ら課題を発見・解決する力の育成は概ね十分と評価した。	・達成状況及び取組の適切さについて、「十分である、よくあてはまる」との評価であった。
改善方策	・主体的・対話的で深い学びにつながる授業に取り組むためには、学習方法、学習形態の工夫研究が必須である。教員の適切な助言と指導により、生徒が自ら課題を発見、解決する力を育てたい。	
生徒指導	・「生徒の自主性や協調性、達成感の醸成」についての取組は概ね十分と評価した。	・達成状況及び取組の適切さについて、「十分である、よくあてはまる」との評価であった。
改善方策	・いじめの未然防止等、地域住民や関係機関との連携が重要である。生徒一人一人の日常的な情報交換を行うとともに、学校運営や生徒指導の取組に対しての理解と協力を得るように努める必要がある。	
進路指導	・実態に応じた進路提案やガイダンスの充実、一貫した進路指導体制の確立が必要と評価した。	・達成状況及び取組の適切さについて、「十分である、よくあてはまる」との評価であった。
改善方策	・多様化した進路志望・受験形態に応じた個別指導を重視するとともに、主体的に自己実現に取り組む姿勢を涵養する必要がある。	
健康・安全指導	・健康で安全な生活が送れるよう、生徒一人一人の状況を把握する必要がある。	・達成状況及び取組の適切さについて、「十分である、よくあてはまる」との評価であった。
改善方策	・面談などをおして生徒の様子や状況を把握し、適切な対応を今後も行う。	
学校運営	・「働き方改革」についての取組がやや不十分であると評価した。	・達成状況及び取組の適切さについて、「十分である、よくあてはまる」との評価であった。
改善方策	・新しい時代の学校教育を実現するために、地域社会と連携、協働するとともに、目指す学校像の共有化やそのための教職員個々の役割についての意識の醸成を図る必要がある。	
公表方法	①学校評議員会 ②ホームページ	

5 添付資料

- (1) 学校評価（学校職員及び PTA 役員） (2) 学校評価（学校関係者評価）